

◆検討の概要と課題

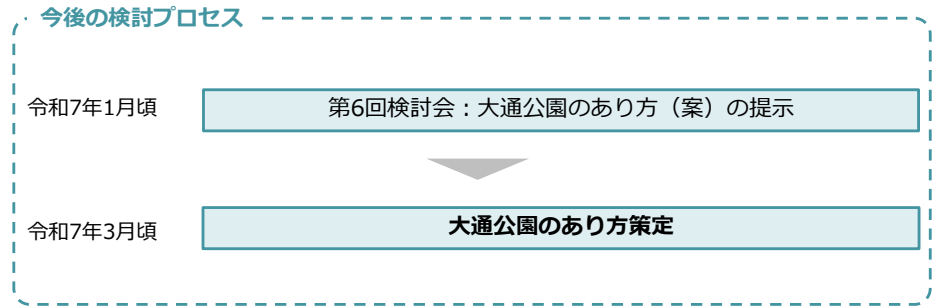
公園の概要	
【所在】札幌市中央区大通西 1 ～12 丁目【面積】78,901㎡【種別】特殊公園 【変遷】1871 年 開拓使により火防線等を目的に道路を整備 1911 年 西 3 ～ 7 丁目において本格的な公園整備 1950 年 さっぽろ雪まつり初開催 1968 年 札幌市創建百年記念事業として西 1 ・ 2 丁目を公園化、西 4 丁目などで噴水を整備 1980 年 都市公園法を適用して大通公園として告示 1989 年 大通公園リフレッシュ事業により再整備(～1994 年完成)	
課題	
大通公園は、年間を通して多くの市民や観光客が訪れる、札幌を代表する公園のひとつであり、都心の魅力向上に向け、周辺のまちとの連携や老朽化した施設の更新が必要である。 また、時代の変化とともに、スケートボード、喫煙、自転車、イベント開催に伴う一般の公園利用への支障など、新たな課題が生じている。	
公園周辺のまちづくり	
北海道新幹線札幌延伸の動きをはじめ、大通公園周辺でも建物の更新が活発化している。 また、公園施策を取り巻く環境についても、既存ストックの効果を一層高めるため、民間との連携加速や地域ニーズに対応した使い方など、より柔軟な発想で運用していくことが求められている。	 出典：大通西 4 丁目南地区市街地再開発組合(左)

◆第 4 回検討会の振り返り

○あり方の検討方針について	
【あり方の検討方針について】 5 つの方針について、これまでの議論がもっと表現されるべき。 - 設定の仕方が抽象的と感じている。 - 大通公園で全部を受け止めるべきなのが疑問。キャパシティのことを考えると、大通公園で受け入れられないものもあるのではないか。 - 大通公園で一番大事にしたいことが見えにくい。大通公園で受け入れるべき機能に優先度をつけて、周りの街区も含めて考えるべき。 - 目指す公園のビジョンがあると市民にも伝わりやすく、分かりやすいのではないか。 - 今議論しているのは多義的であり、色々な価値観が同時に存在している。その作り方を議論することが有効ではないか。	【New Inclusive Odori Park というフレーズについて】 - 議論のたたき台として分かりやすいが、最終的には市民にも分かりやすくするか、副題が必要。 - 公園では使い方の整序化や公園内からはある意味排除しなければならない人が出てくるため、インクルージョンという言葉は慎重な検討が必要。 - 緑というメッセージが Park という言葉からしか感じられないため、緑が感じられるような言葉を追加したほうが良い。 - 立地的な歴史を踏まえるのであれば、ストリートガーデンを目指すなどの大きなビジョンを掲げて、そこにインクルーシブなどが付加されていくべきところではないか。
○5 つの柱と 10 のキーワードについて	
【01-1 歴史性・地域性について】 - 都市が発展している中で、東西・南北をどのようにつなぐかが大事になった。どのようなやり方で行なわれるかが重要なテーマ。 - 遊遊地（散歩などをする所）として整備された長岡安平の整備計画コンセプトは大きな財産。 【02-1 生活の場（日常）について】 - イベントの場として市民から切り捨てられてしまっはいけない。すべてのブロックが市民の場としての役割をどう取り持つかが重要。 - 賑わいは大事だが、利用と景観のバランスをどうとれるのか。 - 保育園が近隣で多いため、遊び場としても大通公園は重要。 - ウェルネスについて、喫煙所を作る・作らないについても議論していかなければならない。 【02-2 発信の場（非日常）について】 - 公園の機能としての非日常として、防災教育や活動の場として位置付けるのも重要ではないか。 【03-1 都市の中にあるみどりについて】 - 今の大通公園の緑をどうするか方向性として見えにくい。 - 近年グリーンインフラという取組が重要視されている。緑の推進をどう考えていくのかを触れてもらえると先進性が生まれるのではないか。 - 大通公園の特徴は芝生（lawn）である。北海道に来ると西洋芝に勝手に入ってそこで寝転ぶ、それが「大通公園の魅力であり価値」。	【03-2 みどりと近接したまちなみについて】 - 公園との連続性が生まれるような舗装をすることから、大通公園を広げて使ってみたり、片方だけ何かやってみる仕掛けができると良い。 - プレイスメイキングで得られたものが、ペーパークレジットに反映できるかもしれない。今までの定義の意味合いを変えていく可能性を社会的に確かめていくことは重要。 - 大通公園は人・クルマ・自転車の主要な東西の交通軸としても重要だと思うが、本位置付けには含まれていない。 - 公園が 100m ごとで提供していることはウォークアブルとして評価できるのか、どのような移動のさせ方をすると、人は気持ちよく歩けるか、何が必要なのかを考えるべき。 【04-1 連続した軸としての一体性について】 - 初期に整備された時には公園として、つながった形相で整備されていたが、徐々にそれが切れてきている。再構築するためになく意思が必要で、それに対するコンセンサス、公園としての一体性が必要。 - 大通公園の一体性を何で担保するか。「Lawn」という視点は重要。 【05-1 公共によるマネジメント/05-2 民間事業者・市民団体の活力について】 - ハード整備と同時にソフトをどう入れ込むかがなければ Inclusive は達成できない。

◆本資料の構成

大通公園のあり方（素案）		資料 1
・ 検討にあたっての与条件整理、大通公園の現状把握と方向性から大通公園のあり方（素案）として空間デザイン戦略・管理運営戦略と将来イメージを示します。		
1. 検討にあたっての与条件整理		
1-1 大通公園のあり方の検討経緯		P2
1-2 上位計画における位置づけ		P2
1-3 社会環境の変化		P3
1-4 大通公園の概要		P4
2. 大通公園の現状把握と方向性		
2-1 大通公園の魅力と機能の向上		P5
2-2 「いこい」と「にぎわい」の両立		P6
2-3 沿道と連携した緑の軸の強化		P7
3. 今後の大通公園のあり方		
3-1 テーマ・コンセプト		P8
3-2 取組詳細		P9
3-3 大通公園の将来イメージ		P11
+		
オープンハウスの結果		参考



1. 検討にあたっての与条件整理

1-1 大通公園のあり方の検討経緯

■都心のみどりづくり方針の策定

- 札幌市は都心のまちづくりの更新期にあり、コロナや温暖化等による社会ニーズの変化などを踏まえ、「札幌市都心のみどりづくり方針」を策定している。
- 大通公園のあり方の検討は、都心のみどりづくり方針の目標を実現するための主要事業のひとつとして位置付けられている。



- 施設の老朽化や公園周辺の建物建て替えなどの機会を捉えて、大通公園においても、求められる役割や機能の変化に伴い、あり方検討を行うこととした。



1-2 上位計画における位置づけ

- 大通公園は、みどりの骨格軸や市民や来街者の憩いや賑わいの交流拠点として、都心の発展に向けさらなる魅力と機能の向上が求められている。

■大通のまちづくりの変遷

- 大通は明治4年(1871年)にまちづくりの基軸として設けられ、時代に合わせて姿を変えながら、今日に至る。

明治	火防などを目的として後志通(のちの大通)、逍遙地が整備されこれを基軸に都心のまちづくりが進んだ		
大正 ～昭和初期	社会の近代化を背景に都市機能の集積が進んだ		
昭和中期 ～昭和後期	人口の増加に伴い急激な都市基盤整備が進んだ		
平成 ～令和・将来へ	人口減少局面に差しかかる中都市の成熟化が進展し、新たな局面へ		

■上位計画における大通の位置づけ

- みどりを基軸とした大通の位置づけ

①第4次札幌市みどりの基本計画

●みどりの将来像(都市)

- 大通公園や中島公園といった大きな公園やみどりのオープンスペースが、市民や来訪者の憩いや賑わいの交流拠点となり、札幌に活力をもたらしています。

②都心のみどりづくり方針

●大通重点エリアのみどりづくり

- 方向性『都心の発展に向け大通のさらなる魅力と機能の向上に資するみどりづくり』
- 視 点『公園と沿道の一体感のあるみどり空間の創出による、みどりの骨格軸の強化』

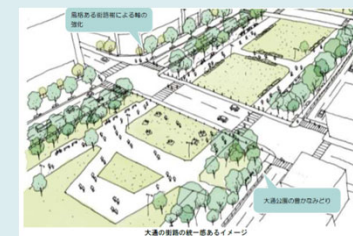
③大通及びその周辺のまちづくり方針 -札幌都心はぐくみの軸強化方針-

●はぐくみの軸のまちづくりの理念

- 象徴性の継承と新たな価値の創造
- ～150年の歴史ではぐくまれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて 新たな魅力と活力を“はぐくむ”～

●大通公園エリアの方針

- はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ
- 居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う都心の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ
- 都心西側の回遊拠点を形成し美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ



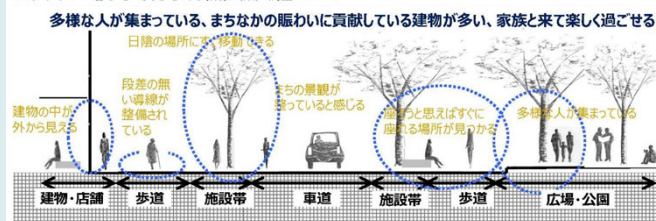
1. 検討にあたっての与条件整理

1-3 社会環境の変化

①「居心地の良いまちなかの創出に向けた取り組み」

- 国土交通省では、「地域課題の解決と新たな価値の創造のため、多様な人々が集まり、交流を促進させることが不可欠」として、**居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり**を進めている。
- 『「ハード環境」を改善しながら、そこに滞在する人々の「空間の快適性・魅力」に対する感じ方を向上させ、その結果として「人々の行動が多様」なものになる。』という流れで、まちなかの状況を総合的に把握する視点の整理が試みられている。

■まちなかの居心地の良さを測る指標（案）調査イメージ



＜資料＞国土交通省(令和2年(2020年)3月)

③2050年に向けた札幌の環境の将来像

札幌市では、これまでの環境問題に関する社会情勢の変化への対応や、本市における環境問題の解決、将来に向けた環境政策のさらなる推進を図るため、第2次札幌市環境基本計画を策定。

■札幌が目指すべき将来像

次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市
「環境首都・SAPP_RO」

■目指すべき将来像の実現に向けた施策

●5つの柱

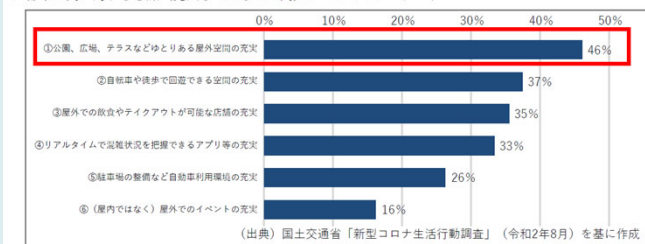
「健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現」
「積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現」
「資源を持続可能に活用する循環型社会の実現」
「都市と自然が調和した自然共生社会の実現」
「環境施策の横断的・総合的な取組の推進」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

②公園をはじめとした屋外空間の価値の再定義

国土交通省の行った調査では、**今後充実化が求められる都市空間として「公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間」**が挙げられている。

■都市空間に対する意識（充実してほしい空間）についてのアンケート

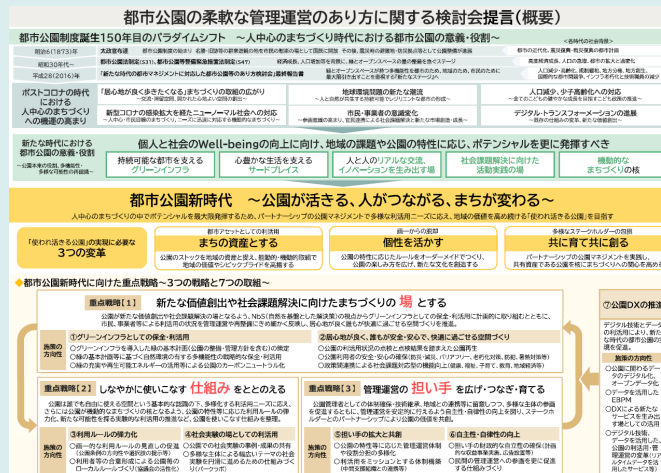


(出典) 国土交通省「新型コロナウイルス生活行動調査」(令和2年8月)を基に作成

＜資料＞国土交通省「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会 中間とりまとめ(参考資料)」(令和3年(2021年)4月)

④都市公園の柔軟な管理運営のあり方

国土交通省では、民間との連携による、より柔軟に都市公園を使いこなすための質の高い管理運営のあり方等について議論・検討を行い、提言をまとめている。



⑤昨今の他都市における公園中心のまちづくり

近年、社会ニーズを支えるプラットフォームとして、オープンスペースを中心としたまちづくりの取組が進められており、周辺の経済活動活性化や新たな価値創出に寄与している。

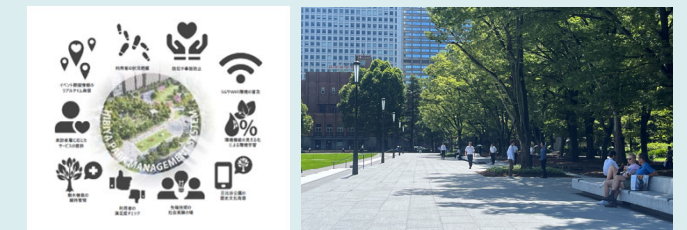
●うめきた2期エリア

- 「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」として、公民連携の枠組みの中で、大規模ターミナル駅前に約45,000㎡もの大規模で高質な都市公園を整備し、公園を中心とする圧倒的なまどりに包まれた空間や多様なアクティビティが生まれる大規模複合再開発を実現。
- 市民・来街者や、企業・研究機関等がチャレンジし活躍出来る場・仕組みを用意し、**人々のQOL向上や企業のイノベーション創出など、新しい価値を共創**している。



●日比谷公園再整備

- 開園130年を目指し、日比谷公園に積層した魅力にさらに磨きをかけ、東京の「今」を映す新しい公園像を目指し再整備を進めている。
- 再整備にあたっては、**公園全体を環境機能を向上させる都市のグリーンインフラとして整備し、緑とオープンスペースによる都市環境の向上の取組を主導**している。
- ICT等を活用し、最新の利用状況や植栽の現況把握、積極的な情報発信などによる**新たなパークマネジメントの展開**を目指している。



1. 検討にあたっての与条件整理

1-4 大通公園の概要

【土地の記憶】

- ①大通公園付近に見られる水の記憶「札幌の水脈とMEM（アイヌ語の湧き水）」：明治初期の地形図では、幾筋もの豊平川の旧河道が、扇状地の上をいろいろな方向に向かって流れていたことがわかる。豊平川の水の一部は、伏流水となって地下を流れ、地形や地質などの条件によって、扇状地扇端にあたるJR 札幌駅近辺などから湧き水（MEM）となって湧き出していた。
- ②南から北へ緩やかな高低差をもつ扇状地地形の扇端に位置する大通公園の地中には、堆積層の下に隠れた豊かな微地形が存在する。
- ③大通公園周辺を含めて、市内中心部の潜在植生は、「ハルニレ林：ハルニレ - エゾイラクサ群集、エゾトリカブト群集」に該当する。

【大通公園再整備の変遷】

明治期、まちの火防線としてつくられた大通公園は、昭和期にかけて市民活動空間となる都市公園として変貌した。平成期においては、快適で潤いのある街並み形成を図るため、街区・道路・公園の一体的なまちづくりを目指した。令和期においては、これまでの取組を推進し、次の時代につなげるため、「大通及びその周辺のまちづくり方針-札幌都心はぐくみの軸強化方針-」（以下、「はぐくみの軸強化方針」という）等を策定した。

明治～昭和期：火防線、都市公園・市民活動空間として整備

【設計思想】

長岡安平の設計思想 -自然的目付、逍遙的な景観形成-

- ・自然地形を活かし人工を抑え、土地に適した樹木を植えてメリハリのある景観の移り変わりを楽しめる逍遙的な景観
- ・自然を重視しつつ、美観と利便性にも配慮した設計手法

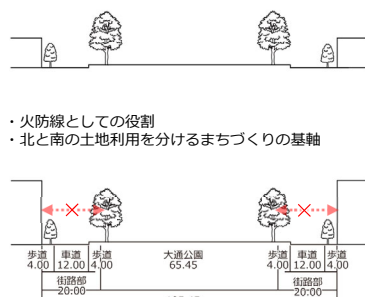
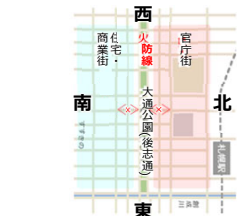


明治末頃の大通公園



昭和30年頃の大通公園

出典：札幌市文化資料室



- ・火防線としての役割
- ・北と南の土地利用を分けるまちづくりの基軸

- ・市民のニーズを取り入れた公園（今の姿へ）
- ・地下鉄・地下街の完成
- ・テレビ塔の完成



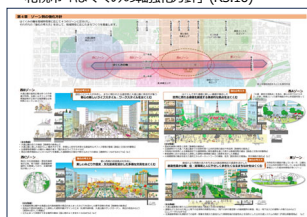
大通火防線内樹木植栽設計図（東京都公園協会）

令和期：はぐくみの軸強化方針、都心のみどりづくり方針

【重点的に進める取組の抜粋】

- 大通・創世交流拠点における象徴的空間の創出：周辺の環境を活かしつつ市有地の活用を検討し、民間開発と連動しながら、象徴的な都市空間を創出する取組を推進。
- 道路空間の利活用の検討：市民・企業・行政などの協働による道路空間を活用した実証実験と必要な調査の実施。

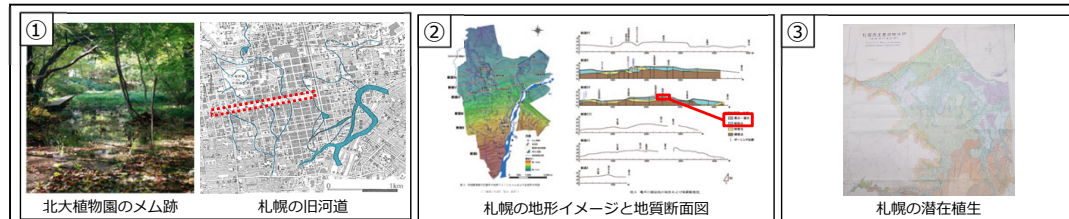
・札幌市「はぐくみの軸強化方針」（R5.10）



・札幌市「都心のみどりづくり方針」（R5.10）



明治期（開拓期）



平成期：象徴空間としての一体整備

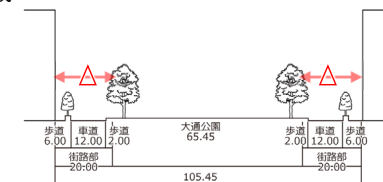
【設計思想】

テーマやゾーンを設定し、公園機能を高めるための整備

- ・札幌の都市軸として歴史的に形成された都市空間の価値の継承
- ・みどりにあふれ水にふれることのできる都心のオアシスとしての機能の充実
- ・人々が集い交流し、多彩なイベントが行われる空間の形成
- ・都市と自然の融合を図り、緑・花・水・光などの演出
- ・札幌の都心景観にふさわしいデザインの採用



出典：さっぽろ観光写真ライブラリー



- ・大通公園再整備事業：札幌の象徴となる公園づくり
- ・シンボルロード整備事業：沿道の歩道の幅が4m→6m、植栽台などファニチャー類の整備や電線類の地中化
- ・沿道建築物および屋外広告物に対する景観誘導の策定：沿道との関係を意識した基準策定



【再整備に向けた課題】

平成の再整備から30年が経過し、施設の老朽化や公園に対するニーズの変化、公園周辺の建物建て替え機運の高まり等により、以下の課題が浮かび上がってきた。

- ①大通公園の魅力と機能の向上
- ②「いこい」と「にぎわい」の両立
- ③沿道と連携したみどりの軸の強化

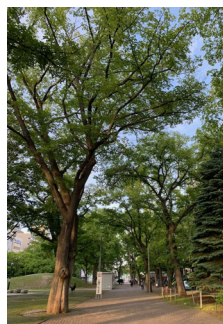
2. 大通公園の現状把握と方向性

2-1 大通公園の魅力と機能の向上

現状

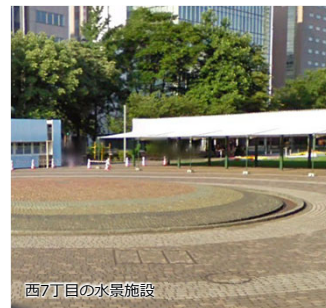
■従来からの役割の継承・強化

- ・ 都心の中の緑の豊かさ及び大倉山・テレビ塔への眺望は、市民から親しみ愛されて来た。
- ・ 立ち入ること・寝転がることが出来る芝生（lawn）こそが大通公園の魅力であり、価値である。



■増加する老朽化施設

- ・ 1989年の再整備当時からおよそ30年が経過し、公園施設全体、特に機械設備系の老朽化が深刻である。
- ・ 再整備当時よりも樹木が繁茂している。



■現状の大通公園における官民連携手法による公園維持管理

- ・ ボランティアや花壇推進組合と連携し、官民連携による維持管理が行われて来たが、花壇の数が減少しており、維持管理手法の検討が求められる。



主な課題

- 増加する老朽化施設への対応が課題。
- 市民ニーズとして実利用に結び付いた改善が求められており、都心にふさわしい質の高い公園の設えが求められている。

今後の方向性

【更新・発展の方向性】

- ①リフレッシュ工事後大きく育った樹木は、公園内外の遮へいとなる場合が多く、維持管理費にも課題があり、見直しが求められる。
- ②時代・ニーズの変化に合わせた遊び機能・水景機能の更新。
- ③持続的な活動・より質の高い管理を見据えた官民連携の更なる発展。

【維持・継承の方向性】

- ①札幌を象徴する景観である大倉山・テレビ塔への眺望の確保。
- ②都心のオアシス機能を果たす、公園の樹木・芝生・水景空間の継承。
- ③戦後の公園整備から受け継ぎ、海外では観光コンテンツとなり得る花壇やバラ園の継承。
- ④ボランティア・民間企業が参画しながらの整備や公園維持管理の継承。

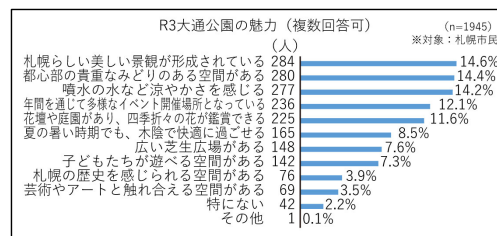
2. 大通公園の現状把握と方向性

2-2 「いいい」と「にぎわい」の両立

現状

■大通公園の魅力

- 大通公園の利用者は、「美しい景観」「みどり」「水の自然的要素」などを公園の魅力と認識しているため、気軽に日常利用が可能な空間・時間の確保が必要である。
- 大通公園は1年を通してイベントが多く開催され、来場者の増加に伴い経済波及効果が大きく、公園におけるにぎわい機能を担っている。

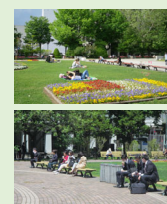


出典：大通公園に関するインターネットアンケート調査結果（R3）

■イベント時の日常利用に関する市民意見

- 公園とその周辺との人々の流動を高めるため、**日常利用機能の強化が必要**。
- 日常利用とイベント利用の両立に向けた時間的・エリア的な空間の有効活用**に関する検討が求められる。
- 利用者ニーズを捉えた上で、**日常利用とイベント利用を兼ねた施設計画**が求められる。

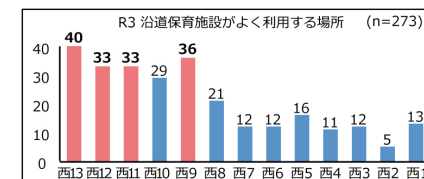
- イベントで占有されている印象がある
- イベント時にベンチを撤去しないでほしい
- イベント時は人が多くなり歩けない・休めない
- イベントがあっても日常利用したい
- イベント時に休める所を増やしてほしい
- イベントをやるところとやらないところで分けて欲しい



出典：札幌市「大通及びその周辺のまちづくり方針-札幌はぐくみの軸強化方針-オープンハウスアンケート調査」（R4）

■保育施設がよく利用するエリア

- 沿道の保育施設等の増加に伴い、子供連れの利用を充実させるべき。
- 大通公園は都心のパブリックスペースとして重要な役割を持っているため、設置する遊具や施設についても、**景観に配慮した質の高いデザイン性や快適性**が求められる。



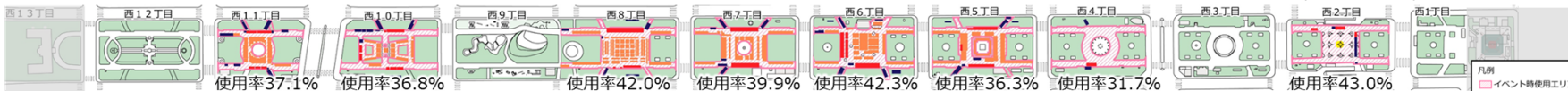
出典：大通公園の利用、公園連続化に関するアンケート調査結果（R3）

■エリアごとの特徴を生かした公園の利活用

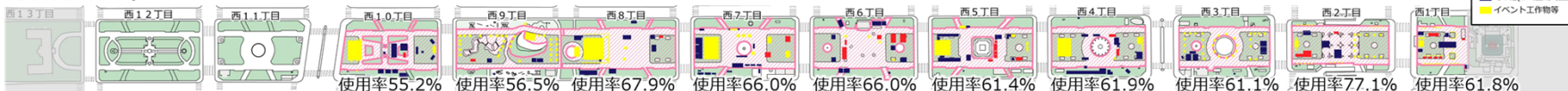
- イベントゾーンとして使われる丁目は徐々に拡大しており、子どもから大人までが通年で各々の**日常時間を過ごせる場の確保**が求められる。
- 更なるにぎわい創出に向けた**イベントのルールづくりの検討**が求められる。

イベント時の占用レイアウトと会場レイアウト（2022年度）

さっぽろ夏まつり



さっぽろ雪まつり



※利用率=イベント時使用エリア面積/丁目毎面積 により算出
(面積はCAD求積による)

凡例
 イベント時使用エリア
 出店・出展ブース
 席・飲食エリア
 その他(ゴミ置場・控室等)
 イベント工作物等

主な課題

- 日常利用とイベント利用の双方の機能が求められているが、日常利用できる期間およびエリアに制限がある。
- 多様なニーズもある大通公園ではソフト面に関する検討も必要。

今後の方向性

【更新・発展の方向性】

- ①沿道施設の変化・多様化するニーズを踏まえた各丁目の使われ方の再検討が必要。
特に子どもの遊び場に対する関心が高く、遊具に頼らない遊びの機能も求められている。
- ②イベント時においても、日常利用ができるスペースが求められる。
- ③札幌らしいイベント開催・更なる賑わい創出に向け、イベントのルールづくりや、質の向上に向けたマネジメント体制の構築が必要。

【維持・継承の方向性】

- ①都心の貴重なみどりのある空間の継承。
- ②緑・花が豊かな空間で「遊ぶ・歩く」「休む」「食べる」ができる状況の担保。

2. 大通公園の現状把握と方向性

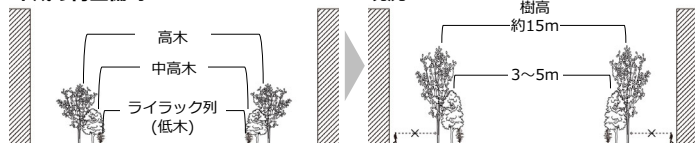
2-3 沿道と連続したみどりの軸の強化

現状

■公園と沿道が連携したにぎわい空間の創出

- 平成の再整備により、札幌の象徴的なみどりの軸が整備された一方、樹木の成長を踏まえ、公園としての良さと沿道との一体感を両立させる適切な公園内の緑量を検討する必要がある。

【沿道植栽の変化】
平成の再整備時



■地下鉄などからのアクセス性を高める地下空間との連携

- 移動の軸としても大通公園は重要であり、**横移動のみならず、地上と地下の縦移動にも配慮した空間の設え**が求められる

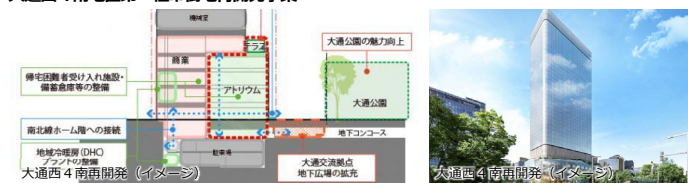


■公園～道路～民間敷地が一体となったみどり空間の創出

- 大通公園と沿道の関係づくりのさらなる検討に向け、「街区」・「道路(地下空間含む)」・「公園」の3つを一体的に考える必要がある。
- 札幌市の象徴である大通公園のみどりの軸を活かし、**沿道開発の機会を捉えてより一体性のあるみどり空間の創出を誘導していく必要がある。**

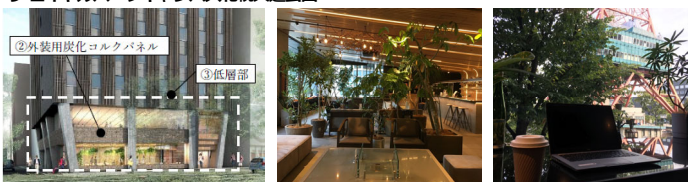
【周辺開発動向事例】

大通西4南地区第一種市街地再開発事業



出典：大通西4丁目南地区市街地再開発組合

ザ ロイヤルパークキャンパス札幌大通公園



出典：三菱地所

■公園側敷地と隣接した歩道部分の活用

- 沿道に対して**裏側感のある道路（公園側歩道部）**・**公園部分の一体的な活用**に向けて検討する必要がある。

【公園側歩道部の夏季・冬季の利用状況】
【夏季】



【冬季】



主な課題

- 平成の再整備時より樹木が大きくなり、遮蔽部分の増加、維持管理費の増加、道路への越境が課題。
- 大通公園と沿道の空間的な一体感に欠け、利活用及びにぎわいの連続性が不足。
- 公園側歩道部は歩行空間とも緑化空間とも言えない中途半端な空間になっている。

今後の方向性

【更新・発展の方向性】

- 歩行空間とも緑化空間とも言えない中途半端な空間になっている、歩道部空間の再検討を行う。
- 現状の大通公園は、日常的な駐輪や路上喫煙、イベント時のプレハブ設置、樹木の成長などにより、沿道とのつながりが薄れており、沿道との連携強化が求められる。
- 地下空間から大通公園が認知しづらい状況の改善や、周辺のまちなみへの回遊性向上により、「街区」・「道路(地下空間)」・「公園」がさらに一体的な空間となるように検討が必要。
- 沿道開発の機会をとらえ、ハード面・ソフト面での更なる連携強化が求められる。



【維持・継承の方向性】

- 東西に連なる札幌の象徴的なみどりの軸の継承。
- 西8丁目・9丁目の連続化による、広々とした市民の憩いの場の継承。
- バリアフリー環境の維持（ユニバーサル化の推進）。



3-1 テーマ・コンセプト

大通公園のあり方：（仮）Inclusive Green Corridor

防火帯から市民の憩いの場となり、公園・道路・沿道が一体となった空間形成を目指している背景を踏まえ、今後もみどり豊かな空間であるとともに、多様な価値観を受け入れ、誰もが互いに尊重しあうこれからの時代にふさわしい象徴空間を目指す

01-1 歴史性・地域性

- ・ みどり豊かなこの空間の継承
- ・ 市民に親しみ・愛されてきた象徴性の継承
- ・ 都心のオアシスである水景空間の継承
- ・ 歴史・文化を象徴する野外彫刻などの継承



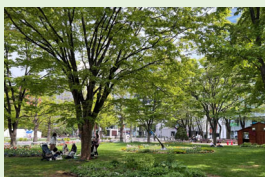
02-1 生活の場（日常）

- ・ 四季を通じて、日常的に大人から子供までが思い思いに過ごせる空間の創出
- ・ 年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず使いやすい空間の整備



03-1 都市の中心にあるみどり

- ・ 中長期的な視点で樹木の健全化を図り、都心部の豊かで良好なみどり空間の維持・向上
- ・ 芝生や花壇に一層親しむことのできる環境や、みどりを身近に感じられる機会を促進
- ・ 都心のオアシスである水景空間の更新



04-1 連続した軸としての一体性

- ・ 札幌の景観特性と街の成り立ちを尊重した景観形成
- ・ 大通公園西側、創成東地区、時計台への人の流れや連続性を意識した空間形成
- ・ 街区間のつながりを持たせた空間形成や利活用方針の検討



05-1 公共によるマネジメント

- ・ 持続的な管理運営を図るため、都市公園に関わる収入の公園施設への還元を検討
- ・ 公園の周辺ならではの開発インセンティブの検討
- ・ 公園利用ルールの検討



01

過去と未来を重ね合わせる

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承すると共に、これからの時代に相応しい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

02

日常と非日常を重ね合わせる

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出すると共に、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

03

都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出すると共に、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

04

一体性と個性を重ね合わせる

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つと共に、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくなる空間を創出していく

05

公共と民間の強みを重ね合わせる

公共によるマネジメントだけにとどまらず、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく

01-2 将来性・国際性

- ・ 環境配慮型の施設整備、再生可能エネルギーの活用、グリーンインフラとしての機能向上
- ・ 国内外の人々が集い、交流を生み出す空間形成
- ・ デジタル機能を活用した、利用者サービスの向上や管理運営の効率化



02-2 発信の場（非日常）

- ・ 多様な日常利用とイベント利用の両立を図る、最適な空間配置の検討
- ・ 札幌らしさ、大通公園らしさを発信できる魅力的なイベントなどによる、にぎわい創出の仕組みの検討



03-2 みどりと近接したまちなみ

- ・ 都心部の回遊拠点として公園とまちをつなぎ、アクセス性・回遊性を高める環境の整備
- ・ 大通全体のにぎわい創出や地上地下結節等に資する、公園と沿道との一体感を高める空間整備



04-2 各街区の個性

- ・ 丁目ごとの変化を感じられる、歩きたくなる空間の形成
- ・ 沿道の土地利用や建物状況に応じた空間機能の一体性の確保
- ・ 景観に配慮した施設の整備



05-2 民間事業者・市民団体の活力

- ・ 民間事業者や市民団体の力を活かした管理運営や施設整備の推進
- ・ 都心の活性化に係る幅広い民間の公園活用のアイデアを受け止められる仕組みの検討



3. 今後の大通公園のあり方

3-2 取組詳細

01

過去と未来を重ね合わせる

01-1 歴史性・地域性

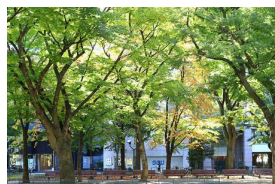
- ・みどり豊かなこの空間の継承
- ・市民に親しみ・愛されてきた象徴性の継承
- ・都心のオアシスである水景空間の継承
- ・歴史・文化を象徴する野外彫刻などの継承

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承すると共に、これからの時代に相応しい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

01-2 将来性・国際性

- ・環境配慮型の施設整備、再生可能エネルギーの活用、グリーンインフラとしての機能向上
- ・国内外の人々が集い、交流を生み出す空間形成
- ・デジタル機能を活用した、利用者サービスの向上や管理運営の効率化

樹冠が重なり鬱蒼とした樹林環境の改善や腐朽などが進み健全性が低下した樹木の更新などを行い、長く市民に親しまれてきたみどり豊かなこの空間を維持・継承していきます。



雨水貯留・浸透機能が期待できる植栽基盤や舗装基盤などの導入を検討し、公園が持つグリーンインフラとしての機能を充実させ、持続可能な都市を支える象徴的な空間とします。



樹木や芝生からなるみどりの軸とその先に見える山並みやテレビ塔へのピスタ（眺望）を維持・継承していきます。



二次元コードを活用した多言語対応の公園案内や施設の解説など、ICTを活用することで、公園利用者の利便性の向上と公園管理運営の効率化を図ります。



野外彫刻などは、大通公園内で維持・継承していくことを基本としますが、樹木などの陰に隠れ、十分に認知されていない施設も多数あることから、移設により存在感を高めていくことを検討します。



大通公園の集客力や発信力を活かし、先進的な取組や社会実験を受け入れ、新たな価値や情報を発信し共有する場としていきます。



02

日常と非日常を重ね合わせる

02-1 生活の場（日常）

- ・四季を通じて、日常的に大人から子供までが思い思いに過ごせる空間の創出
- ・年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず使いやすい空間の整備

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出すると共に、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

02-2 発信の場（非日常）

- ・多様な日常利用とイベント利用の両立を図る、最適な空間配置の検討
- ・札幌らしさ、大通公園らしさを発信できる魅力的なイベントなどによる、にぎわい創出の仕組みの検討

ブラック・スライド・マントラ（西8丁目）やクジラの山（滑り台が併設された築山）、遊水路のように、景観要素とそれ以外の機能が多義的に兼ね備わった、誰もが楽しむことができる遊びやすいこの機能の充実を図ります。



イベントが盛んに行われている西5・6・7丁目において、芝生と舗装のバランスの再編を検討し、イベントを開催しやすい空間を実現します。



多様な過ごし方を選択できるよう、樹林内へのテーブル・ベンチの配置や、ほど良い高低差の創出などを検討します。



設営撤去期間の短縮を目的とした電気・給排水設備の整備など、イベント用の仮設施設の充実を図ります。



雪と触れ合うなど、年間を通して札幌の四季を感じることができる空間を整備します。



様々な距離感でイベントとの関わりを選択できるように施設計画により、公園利用者の快適性の向上を図ります。



3. 今後の大通公園のあり方

3-2 取組詳細

03

都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

03-1 都市の中心にあるみどり

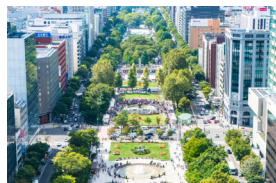
- ・中長期的な視点で樹木の健全化を図り、都心部の豊かで良好なみどり空間の維持・向上
- ・芝生や花壇に一層親しむことのできる環境や、みどりを身近に感じられる機会を促進
- ・都心のオアシスである水景空間の更新

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出すると共に、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

03-2 みどりと近接したまちなみ

- ・都心部の回遊拠点として公園とまちをつなぎ、アクセシビリティ・回遊性を高める環境の整備
- ・大通全体のにぎわい創出や地上地下結節等に資する、公園と沿道との一体感を高める空間整備

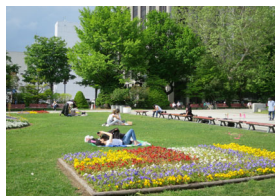
現状のみどりをそのまま維持するのではなく、大通公園に相応しい緑量を検討し、適切な樹木の間引きや下枝の整理等を行っていきます。



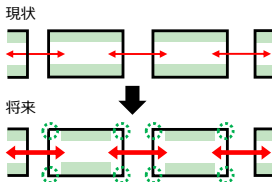
公園に隣接した2mの歩道部分については、空間の形状や利用に関する検討を進め、ベンチの配置や樹木の剪定を行うことで、公園とまちをつなぐ設えを検討します。



各丁目にバランスよく配置されている芝生や花壇については、より注目され親しまれるものとなるよう、配置や形状の見直しを検討します。



街区の角部に人の流れを受け止める広場空間を設けたり、樹木の下枝整理による見通しの改善を図ることで、回遊性とアクセシビリティを高めめます。



都心のオアシスである水景施設については、現状の公園利用や持続可能な管理運営にも配慮し、施設数や配置の見直しを行いながら、新たな形で水に触れ合えたり、水との距離感が選択可能な設えを検討します。



大通公園沿道の再開発などの機運を捉え、連携して公園の整備を行うことで、公園と周辺のまちの一体感を醸成します。



出典：大通西4丁目南地区市街地再開発組合

04

一体性と個性を重ね合わせる

04-1 連続した軸としての一体性

- ・札幌の景観特性と街の成り立ちを尊重した景観形成
- ・大通公園西側、創成東地区、時計台への人の流れや連続性を意識した空間形成
- ・街区間のつながりを持たせた空間形成や利活用方針の検討

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つと共に、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくなる空間を創出していく

04-2 各街区の個性

- ・丁目ごとの変化を感じられる、歩きたくなる空間の形成
- ・沿道の土地利用や建物状況に応じた空間機能の一体性の確保
- ・景観に配慮した施設の整備

樹木や芝生からなるみどりの軸、その先に見える山並みやテレビ塔へのビスタ（眺望）、デザインの統一感など、大通公園としてのトータルコンセプトに基づき、一体性を図ります。



まちの景観に溶け込み、都心にふさわしい景観を創出しつつも、個性を感じられる水景施設・遊び場・ファニチャー等のデザインプランを検討します。



05

公共と民間の強みを重ね合わせる

05-1 公共によるマネジメント

- ・持続的な管理運営を図るため、都市公園に関わる収入の公園施設への還元を検討
- ・公園の周辺ならではの開発インセンティブの検討
- ・公園利用ルールの検討

公共によるマネジメントだけにとどまらず、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく

05-2 民間事業者・市民団体の活力

- ・民間事業者や市民団体の力を活かした管理運営や施設整備の推進
- ・都心の活性化に係る幅広い民間の公園活用のアイデアを受け止められる仕組みの検討

民間事業者や市民団体のボランティア活動や利用の場として積極的に機会を提供し、地域への愛着や生きがいを育む仕組みづくりを検討します。



再開発に伴う大通公園への貢献メニュー等を検討し、公園施設の更新や整備などを進めます。



出典：大通西4丁目南地区市街地再開発組合

3-3 大通公園の将来イメージ

西10-12丁目 札幌の歴史と文化を伝承するエリア

- 札幌の歴史や文化、花とみどりを活かし、多様な交流をはぐくむエリア
- 野外彫刻、姉妹都市施設、西13丁目の資料館といった札幌の歴史を体感できるエリア
- 芝生や花壇、ガーデニングといった大通公園の文化を体感できるエリア

西1-5丁目 札幌を象徴する公園の顔となるエリア

- 札幌都心の骨格軸である札幌駅前通と大通が交差し、札幌を象徴する施設・活動が集積するエリア
- 大通公園を特徴づけるみどりや水景施設のほか、テレビ塔や大倉山への眺望により、札幌らしさを体感できるエリア
- 沿道と一体となったにぎわいが創出され、多くの来街者の滞留や交流が生まれるエリア

西4-9丁目 多様なニーズに対応した札幌ならではの活動を体験できるエリア

- いこいの充実を図ることにより、多様なライフスタイルと都市型イベントの共存を図るエリア
- イベントの質的向上を図ることで札幌を代表するイベントを体験できるエリア
- 多様な遊び・休息・滞留機能の充実、冬でも遊べる仕掛けを取り入れることで札幌ならではの公園利用を体験できるエリア

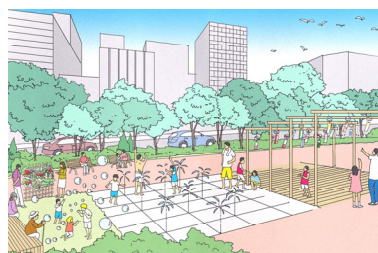
○参考 大通公園の既存ゾーニング図



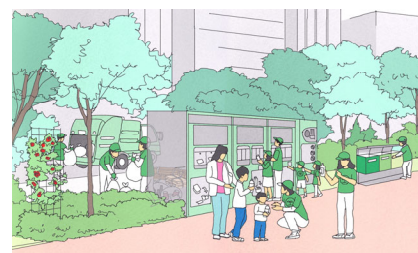
◆ 大通公園の活動イメージ



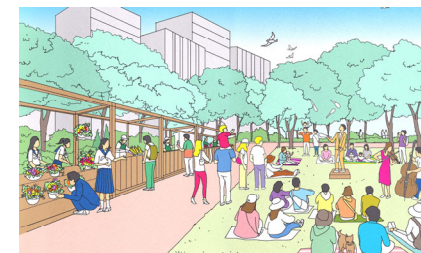
- 先に進みたくなるような変化やランドマークがある
- 各丁目の出入口が感じられる
- 1.5km全体が一体と感じられる共通のデザイン要素がある
- 先に進みたくなるような移動の選択制がある



- 道路の音から離れた場所が見つかる
- 身体を使える地形のような場所がある
- 身体を使った子供・大人の遊び場になる



- 使いづらさを感じにくくする配慮
- 公園とそれ以外とのつながりへの配慮
- ファニチャー、ロゴ、ユニフォームなど公園全体としての統一性を感じられるきっかけがある



- 本物の文化（衣食住・心技体）に触れられる
- 多義的な過ごし方（遊び場、音楽、スポーツ等）に触れられる
- 社会実験などの新たな取組に触れられる



- イベントへの参加度合いを選択できる
- 日常的に過ごす時間で人と人の距離に選択性がある（ベンチの向き、サイズ等）
- 木、水のような自然との距離に選択性がある



- 少し高い場所/低い場所がある
- 色々な姿勢で過ごせる
- 公園を外から眺められる場所がある（木立の密度や視線の抜け）
- 花の場所、緑の場所、映える場所のメリハリがある



- 冬季や夜間でも楽しめる場所がある（ライティング等）
- 時間毎の変化が感じられる（時報のような仕掛けなど）
- 植物の変化で四季が感じられる
- 雨でも長く過ごせる場所がある
- 冬のソリ移動が楽しめる



- 夏場のミストなどにより環境の良さを感じられる
- コンポストなど環境配慮の取組を知る環境教育の場となっている
- 参加できる環境活動がある
- 災害時にも安心できる備えが感じられる

オープンハウスの概要について

(1) 概要

日 時	2024年8月2日(金) /3日(土) 11:00～18:00
場 所	札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）内 憩いの空間北 1 東
参加人数	2日間合計 521名
開催概要	パネル・資料の展示、職員による説明 シール投票、自由意見徴収

(2) 当日の様子



シール投票について

大通公園のあり方

大通公園のあり方案案骨子

大通公園のあり方：New Inclusive® Odori Park

大通公園は、防災等から遠道地、市民のこいの場として変遷し、変化し続けてきた社会ニーズを幅広く受け止める場として今日に至ります。札幌都市の南北を区分するまちづくりの基軸から、街区・道路・公園が一体となる空間を目指し、社会が複雑化・高度化する中で、多様な価値観を受け入れ、互いの尊重し合う、これからの時代に相応しい札幌市の象徴空間とします。

※Inclusive（インクルーシブ）とは？
◆「包括的な」「包括的な」というような、「すべてを含み込む」を意味する言葉です。

01.過去と未来を重ね合わせる

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承すると共に、これからの時代に相応しい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していきます

01-1 歴史性・地域性

・ふじり歴史公園の活用
・札幌市立中央図書館の活用
・札幌市立中央図書館の活用
・札幌市立中央図書館の活用

222

01-2 将来性・国際性

・札幌市立中央図書館の活用
・札幌市立中央図書館の活用
・札幌市立中央図書館の活用
・札幌市立中央図書館の活用

124

02.日常と非日常を重ね合わせる

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出すると共に、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていきます

02-1 生活の場（日常）

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

294

02-2 発信の場（非日常）

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

199

03.都心のみどりともなみを重ね合わせる

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出すると共に、まちの顔として高めていくことで、みどりともなみの一体感を醸成していきます

03-1 都市の中心にあるみどり

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

224

03-2 みどりと近接したまちなみ

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

131

04.一体性と個性を重ね合わせる

1.5kmに及ぶ大通公園としての一体性を保つと共に、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたく空間を創出していきます

04-1 連続した軸としての一体性

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

131

04-2 各街区の個性

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

122

05.公共と民間の強みを重ね合わせる

公共によるマネジメントを見直しと共に、民間事業者・市民団体の活力をこれまでに活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していきます

05-1 公共によるマネジメント

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

72

05-2 民間事業者・市民団体の活力

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

112

その他自由意見について ※一部抜粋・原文の通り

(1) 公園のあり方

- ・北海道民が自分の地の事の歴史をもっと知る場所。
- ・全体が車イス、歩行器など、身体に不自由がある様々な方々が移動しやすく。

(2) 公園の更新

- ・道路なくしたらもっと大きく使える。
- ・現状維持→施設更新でよい。どちらかという活用をもっと探るべき。

(3) 日常利用に関する意見

- ・幼児～高学年までの子どもが遊べる遊具・雪遊び。
- ・市民が緑や花を眺めて過ごせる空間をもっと作ってください。

(4) 非日常に関する意見

- ・大人のイベントが多すぎる、飲食ばかり。
- ・イベントはあってもいいが増やしすぎないでほしい。

(5) 自然環境に関する意見

- ・大通公園は、緑の回ろつうとして大切です。樹木も様々あり、野鳥も多いです。
- ・緑やお花のきれいなそのままの大通公園が魅力的！

あなたは、どのように過ごしたいですか？

大通公園で「体験」できること（User Experience）を検討しています。
みなさまのご意見をお聞かせください。

◆多様な体験が生まれる場づくり

UX 1 1.5kmの移動を楽しめる

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

145

UX 2 五感に意識を向けられる

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

165

UX 3 配慮が行き届いていると感じられる

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

142

UX 4 興味が広がるきっかけを持てる

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

235

あなたは、どのように過ごしたいですか？

大通公園で「体験」できること（User Experience）を検討しています。
みなさまのご意見をお聞かせください。

◆多様な体験が生まれる場づくり

UX 5 距離感の選択性が広がる

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

140

UX 6 過ごし方の違いが感じられる

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

188

UX 7 時間・季節の変化が感じられる

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

336

UX 8 環境の良さを感じられる

・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用
・大通公園の活用

269